

平城宮東院庭園で観月会

9月26日（土）平城宮東院庭園で、奈良文化財研究所、平城遷都1300年記念事業協会（以下、「記念事業協会」）、奈良県、奈良市等が共に主催者となり、観月会をおこないました。

平城宮東院庭園が今年7月に名勝指定されたことについては既にお知らせしたところですが、一般公開されてから10年余り、今回のようなイベントが開催されたのは初めてでした。かねてよりこの古代宮廷庭園を有効に活用したいと考えていた研究所が記念事業協会に呼びかけたところ、快く賛同を得ることができ、文化庁の後援も受けて、遷都1300年祭100日前イベントとして実現したものです。100名限定の一般参加抽選には2000名を超える応募があり、人々の関心や期待の高さを知るところとなりました。

当日は天候に恵まれ、きれいな夕日が沈むころに開場、天平茶や古代のお菓子をふるまいながら参加者を迎え入れました。そしてあたりが夕闇に包まれた午後6時、池の中央に浮かぶ復原建物は、月明かりと燈火に照らされて、幻想的な舞台に変わりました。

仲川奈良市長、玉井文化庁長官および奥野誠亮記念事業協会特別顧問の主催者挨拶の後、「天平の宴」として篠笛、尺八、小鼓の演奏が響く中をミス奈良や研究所の職員ら14名がモデルとなって天平衣装を華麗に披露しました。

後半はオカリナ奏者の宗次郎氏が、この日のために作ったオリジナル曲など数曲を奏で、観客たちは古代宮廷の世界のひとときをこころゆくまで楽しみ、盛況のうちに終演となりました。

このたびの試みを参考にして、来たる遷都1300年祭、そしてその後の活用を考えていきたいものです。

（管理部 永井 あつ子）



中央建物で、プログラム「天平の宴」